

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成25年3月25日(月)～3月31日(日)〔平成25年第13週〕の感染症発生状況

第13週で患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。

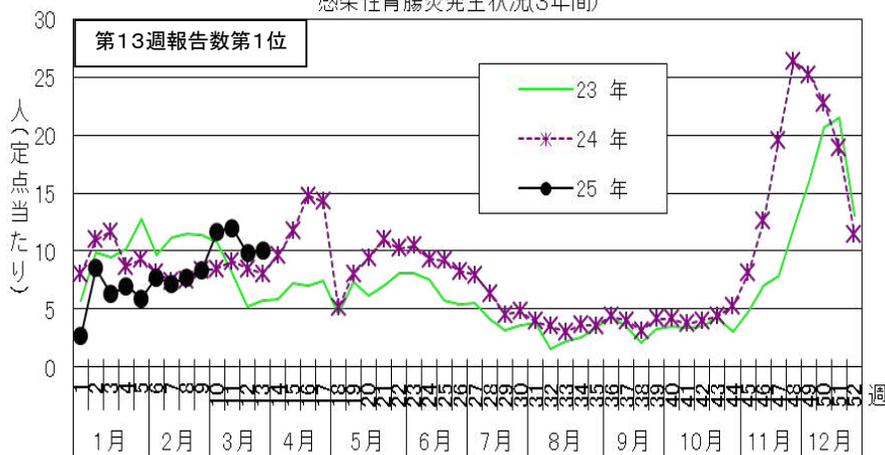
感染性胃腸炎は定点当たり10.09人と前週(9.82)より患者報告数はやや増加し、例年よりもやや高いレベルで推移しています。

インフルエンザは定点当たり1.00人と前週(3.13)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

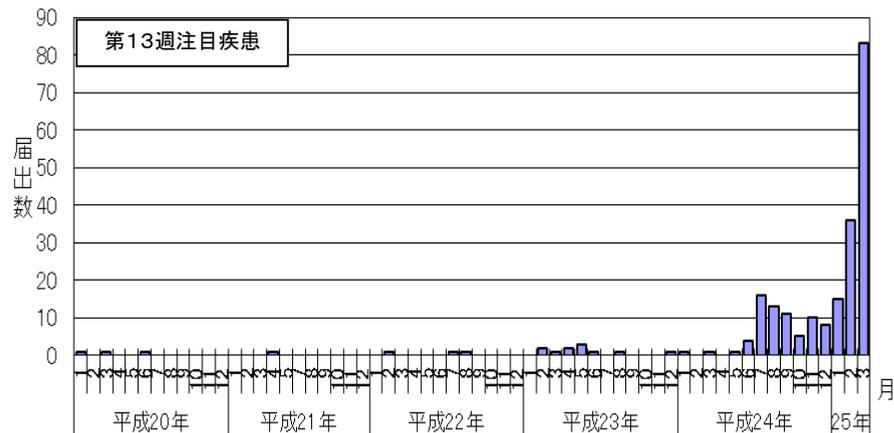
風しんの届出が22件(臨床診断例2件、検査診断例20件)あり、依然として高いレベルで推移しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における月別風しん届出数



風しんワクチンの接種はお済みですか？

風しんは、昨年6月以降、届出数が全国的に非常に多くなっており、市内でも例年を大きく超えるペースで患者が発生しています(左下グラフ参照)。

特に、妊娠中の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。 これらを「先天性風しん症候群」といいます。

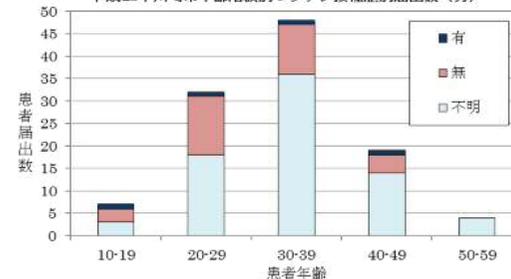
予防接種の重要性を再認識！！

1977年から始まった風しんの定期予防接種は、当初、将来妊娠する可能性のある女子中学生に限定されたため、20～40代の男性に患者割合が高くなっていると推測されます。

また、ワクチン接種歴が「無」又は「不明」の方が96%以上を占めています。風しんはワクチン接種により防ぐことができます。



平成25年川崎市年齢階級別ワクチン接種歴別届出数(男)



平成25年川崎市年齢階級別ワクチン接種歴別届出数(女)

